

平成20年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

学校長 山本 登紀男

1 教育目標

地域の医療・福祉に貢献できる有為な人材の育成

- ・人を尊び、自らも健全にたくましく生きる生徒を育てる
- ・人を慈しみ、自らも技術の向上を図る生徒を育てる
- ・人を愛し、自らも豊かな感受性をもった生徒を育てる

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ①殆どの生徒が将来、看護師や介護福祉士の資格を取得し、医療・福祉の道を志している。
- ②自ら学ぶ姿勢が生徒に浸透し、専門知識・技術習得に求められる基礎学力が定着してきた。
- ③看護・福祉に要求される基礎体力及び基本的な生活習慣は概ね確立されているが、より一層の充実を図る必要がある。
- ④近年、健康福祉科への志望者は減少傾向にあったが、学校理解、生徒募集等の取組により定員の確保が図られた。
- ⑤地域と生徒の相互理解の高まりにより、地域の医療機関、施設への就職者が増加した。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ①基礎学力の充実を図りながら、看護師・介護福祉士に必要な専門知識・技術の習得に努め、望ましい職業観を確立する。
- ②病院・施設実習、ボランティア活動を通し、看護師や介護福祉士の理念やモラルを身につけ、他者を尊重する「思いやりの心」を育てる。
- ③部活動や生徒会活動を通して基礎体力の向上や強い精神力を養い、他者と協調・連携し、共に逞しく生きる生徒を育成する。
- ④地域の歴史・伝統・文化についての学びを深め、ふるさとを愛する心を育てることで地元に貢献する意識を高める。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ①教職員として使命と熱意をもって生徒に関わり、家庭・地域・実習機関との信頼関係を構築する。
- ②全教職員が学校運営への参画意識を持ち、目標管理に基づく教育活動を展開することにより、学校の教育力を高める。
- ③生徒・保護者および地域のニーズに応えるため、積極的に学校の説明責任を果たし、開かれた学校づくりを推進する。

3 今年度の重点目標

- ①わかる授業への工夫改善、普通教科と専門教科の指導連携、常識力検定の実施により、生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。
- ②目的意識・進路意識の高揚と、専門教科指導の充実を図り、看護師・介護福祉士ともに国家試験合格率100%を目指す。
- ③看護や福祉の道を目指す生徒として、生命を尊重し、他を思いやり、場に応じた行動のとれる豊かな人間性の涵養を目指す。
- ④部活動や生徒会活動の活性化を図り、看護や福祉の道を進む生徒にふさわしい体力向上に取り組む。
- ⑤地域に開かれた学校として、看護・福祉の情報提供や施設設備の開放を行い、地域のニーズに応える。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	
						判定基準	備 考
1 わかる授業への工夫改善、普通教科と専門教科の指導連携、常識力検定の実施により、生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	① 普通教科と専門教科の連携を図り、わかる授業への工夫改善を行う。	教務課 各教科	授業研究会や互見授業は行われているが、普通教科と専門教科との連携は十分とはいえない。	【努力指標】 普通教科、専門教科の連携のために、互いの授業を積極的に参観し自らの授業改善に活かす。	研究授業に参加した回数が A 4回以上 B 3回 C 2回 D 2回未満 である。 授業の参観回数が A 7回以上 B 5回 C 3回 D 3回未満 である。	A+B が70%以下の場合、実施方法を検討する。	
	② 生徒の理解度に応じた学習指導を行う。	教務課 各教科 学級担任	学習理解度の差に応じた授業が十分できているとはいえない。	【満足度指標】 生徒が満足できる授業をしている。	生徒の A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 が授業に満足している。	Bランクに達しない教科は、評価内容を分析し授業改善を図る。	生徒による授業評価を実施する。
	③ 家庭学習調査を実施しながら、家庭学習課題を与え、その定着・充実を図る。	教務課 各教科 学級担任	家庭学習時間が増え、家庭での学習習慣が定着しつつあるが、まだ十分とはいえない。	【成果指標】 家庭学習時間が、 1年生1時間以上 2年生2時間以上 3年生3時間以上 を確保する。	生徒の家庭学習時間の平均が A 3時間以上 B 2時間以上 C 1時間以上 D 1時間未満 である。	C以下の場合、各教科で課題や指導法を再検討する。	毎日 SH 時に家庭学習時間調査を行い、月毎に評価する。

						石川県立田鶴浜高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2. 目的意識・進路意識の高揚と、専門教科指導の充実を図り、看護師・介護福祉士ともに国家試験合格率100%を目指す。	① 進路実現に向けた自覚を促し、自己理解シート・キャリアマップを作成する。	進路指導課 学級担任	ほとんどの生徒は明確な目的意識を持っているが、一部の生徒に意欲の低下が見られる。	【成果指標】 自分の進路を明確に意識している。	進路志望達成のためのキャリアマップを作成できた生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満である。	1年生C 2年生B 3年生A に達するまで個別指導を継続する。	LHで作成する。
		② 専門教科の指導の充実を図り、国家試験合格率100%を目指す。	衛生看護科	学年毎に国家試験対策を行っているが、目標を達成できず、補習や個別指導を受ける生徒がかなりいる。	【成果指標】 80%の生徒が目標を達成する。	目標を達成できた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である。	C 以下の場合 は指導法を再検討する。
	健康福祉科		それぞれの学年の目標に対して意欲を持って取り組んでいるが、達成できない生徒がいる。	【成果指標】 実技試験でクラス全員の得点率が70%以上である。	クラス全員の 実技試験での得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	C 以下の生徒に 個別指導を行う。	(1年生) 実技試験は単元毎に行う。
				【成果指標】 クラスの70%の生徒が施設実習でB評価以上である。	施設実習でB評価以上の生徒がクラスの A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	C 以下の場合、 指導法を再検討する。	(2年生) 施設実習の評価票による。
				【成果指標】 模擬試験でクラスの平均得点率が70%以上である。	クラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	C 以下の場合、 指導法を再検討する。	(3年生) 模擬試験毎に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 看護や福祉の道を目指す生徒として、生命を尊重し、他を思いやり、場に応じた行動のとれる豊かな人間性の涵養を目指す。	① 看護や福祉の道を目指す生徒として、積極的にボランティア活動を推進する。	総務課 学級担任 衛生看護科 健康福祉科	ボランティア活動に取り組む生徒は減少傾向にある。昨年度総時間数3,395 時間であった。	【成果指標】 ボランティア活動の総時間数が昨年以上である。	年間総時間数が A 4,000 時間以上 B 3,500 時間以上 C 3,000 時間以上 D 3,000 時間未満である。	C 以下の場合には、意義等について再度指導する。	
	② 実習におけるマナーと、状況や場に応じた行動がとれるよう全職員で指導する。	衛生看護科 健康福祉科	挨拶が習慣化していない生徒や、コミュニケーション能力が不十分であり、場に応じた行動がとれない生徒もいる。	【成果指標】 実習において礼節ある行動がとれる。	実習の評価票で良くできたと評価された生徒が A クラスの90 %以上 B クラスの80 %以上 C クラスの70 %以上 D クラスの70 %未満である。	C 以下の場合、日常での礼節や基本的な生活態度に対する指導の強化と個別指導を実施し、個々の意識を高める。	実習終了毎に評価する。
				【成果指標】 学校生活において場に応じた行動がとれる。	場に応じた行動がとれていると答えた教職員が A 90 %以上 B 80 %以上 C 70 %以上 D 70 %未満である。	C 以下の場合クラス、学年で指導を継続する。	
4 部活動や生徒会活動の活性化を図り、看護や福祉の道を進む生徒にふさわしい体力向上に取り組む。	① 生徒会執行部が企画・運営する行事に生徒を積極的に参加させる。	生徒会 学級担任	生徒会行事に無関心で、積極的に関わる姿勢の乏しい生徒が見られる。	【満足度指標】 生徒会の挨拶運動に積極的に参加する。	挨拶運動に参加した生徒の延べ人数が A 400 名以上 B 200 名以上 C 100 名以上 D 100 名未満である。	C 以下の場合、目標達成にむけて指導する。	定期考査後、挨拶運動を実施する。
	② 看護や福祉に必要な基礎体力を養うため、合同部活動を推進する。	生徒会 部顧問	体力は概ね県平均を上回っているが、持久力などでは下回っている。	【成果指標】 多くの生徒が体力アップ合同部活動に参加する。	全校生徒の A 50 %以上 B 45 %以上 C 30 %以上 D 30 %未満が合同部活動に参加した。	C 以下の場合、参加率向上のための方策を検討する。	冬季を中心に年間10 回実施する。
	③ 部活動の活性化を図る。	生徒会 部顧問	ほとんどの部活動は、毎日活動しているが、活動日数の少ない部活動もある。	【成果指標】 部活動の活動日数が増加する。	年間活動日数の平均が A 120 日以上 B 80 日以上 C 60 日以上 D 60 日未満である。	C 以下の場合、生徒会、部顧問で向上策を検討する。	月毎に各部活動の活動状況を実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	石川県立田鶴浜高等学校	
						判定基準	備 考
5 地域に開かれた学校として、看護・福祉の情報提供や施設設備の開放を行い、地域のニーズに応える。	① 地域の医療・福祉関係者の本校への理解を促進するとともに、生徒の地元医療・福祉施設への理解を深める。	進路指導課 総務課 衛生看護科 健康福祉科	生徒が県内各地の医療・福祉施設で実習に取り組むとともに、地域の医療・福祉関係者の授業参観や、本校職員による講演などが行われている。	【成果指標】 本校と地域の医療・福祉施設との交流が盛んになる。	地域の医療・福祉施設との交流が年間 A 60回以上 B 50回以上 C 40回以上 D 40回未満である。	C 以下の場合、医療・福祉施設との関わり方について再検討する。	実習・ボランティアは交流回数から除く。
	② 健康チェックを通じて地域住民の健康に関心を示し、地域との信頼関係を深める。	衛生看護科 総務課	衛生看護科生が地域へ出て技術を活用する場が増えている。	【成果指標】 地域住民が満足する健康チェックができる。	満足できた地域住民が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である。	C 以下の場合、測定方法や説明方法について再指導する。	健康チェック実施後、アンケート調査を行う。
	③ 小学校・中学校への出前授業の充実と地域への施設開放を行う。	健康福祉科 総務課	小学生、中学生の福祉に対する理解が十分とは言えない。	【努力指標】 福祉に対する小中学生の理解が深まる。	福祉に対して理解を深めた小中学生が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	C 以下の場合には、実技指導等により、興味・関心が高まる出前授業の工夫を行う。	出前授業の後、アンケート調査を行う。